

愛知山岳労働

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2023年7月20日発行

No. 602号 (第55期 5号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

6月24日(土) 救急救命法講習会を開きました。



講師 森(東三河)スタッフ2名

参加山岳会(オンライン含む): 犬山1名、ASCI1名、春日井3名、スルジェ1名、じねんじょ5名、若駒1名、半田4名、あつた2名。

2023年6月24日(土)9時30より県連事務所で行いました。

東三河山ぽ会の事故事例での3件、今期県連での事故概要を説明。愛知県連から出されている事故事例集に学ぶべきこと。同じような事故が多く置き換えてみる必要がある。事故の状況評価の流れや蜂など虫刺されなどの対処方法を学びました。午後からは三角巾使ったケガの処置の方法(足首、腕など)、を実践し、ザイル担架での救助、ネットとストックを使った担架の方法などを学び終了しました。

《目次》

	6月24日(土)救急救命法講習会を開きました。	1
	会創立記念誌の紹介	2
遭対部	6月16日(金)第55期第2回遭対担当者会議の報告	4
〃	夏山合宿遭対連絡会議の報告 その他	6
自然保護部	6月4日鈴鹿山系清掃登山の集計報告	8
教育部	6/22(木)第4回教育担当者会議を開きました	9
〃	教育部交流山行をします!(9/24)	9
組織部	第55期 第4回 組織担当者会議 報告	10
〃	全国組織担当者会議参加報告	12
	カレンダー	14

会創立記念誌の紹介

昨年、会の創立 50 周年を迎えられこれを記念して記念誌を発行された会があります。その内容すべてを紙上にて紹介することはできませんが、記念誌の冒頭に掲載されている会の代表者の挨拶を紹介して代えたいと思います。春日井峠の会会長小嶋さんの「はじめに」、名古屋山歩会会長渡辺さんの「会創立 50 周年をむかえて」と記念誌の表紙写真を掲載します。

各会にはそれぞれ配布されていると思いますが、県連事務所にもありますのでご覧ください。



はじめに

春日井峠の会会長 小嶋紀子

春日井峠の会として 4 名の 20 代の会員が始めた会がいまでは 50 年を超え、50 名の会員を数えます。ここまで至るまでは、先輩諸氏による努力の賜物と感謝に堪えません。

日々の山行活動は日帰り山行から海外登山まで幅広くおこなっています。“ハイキングからヒマラヤまで”がちよっと前まで労山のキャッチフレーズでした。この冊子では会員の山行経験は、長い人から 1 年ほどの方まで多様な方のハイキングから岩、アルプスの縦走、雪、海外登山まで幅広く、雑多に掲載致しました。

50 周年に引っかけて 50 名山を集めるつもりでした。しかしコロナの流行で会員の皆様には思っていた山行を実行する予定もたらず、多くの方には以前行った山行を書いて頂きました。登山道も年々変化していますので、できるだけ新しい情報を提供するつもりでしたが残念です。

昔は山に行く特にバリエーションルートなどは、資料を集めたり経験者を探して聞いたりしていましたが、今やネットで山の名前を入力すれば 10 件ほど出てきます。しかしどんなレベルの人か、何歳の人がこのタイムで歩けるのかわかりません。ここに掲載されているものは実際に経験したものを載せていますので、これからの山行を計画する一助になるといいかと思います。

【巻頭言】会創立 50 周年をむかえて

名古屋山歩会会長 渡辺 伸雄

名古屋山歩会は 1972 年 10 月、名古屋市の金山近くにある矢嶋工業の人たちを中心に結成されました。その時の主旨は次項に掲載した、当時中央アルパインクラブの経験を元に会創立の中心となった春原進氏の文章に記されています。

それは ①今までのどんな会にもないもの

②山に登りたいと思う人が気軽に入れる

③誰にでもできる山登り体系を会の中で作り上げていく

④仲間を大切に、日常生活を豊かにするための山岳活動をめざす
というものでした。

日本全体が経済成長し、多くの国民が多様なスポーツ要求を持ってきた社会に適応し、封建的な体質が目立った旧来の山岳会とは異なり、国民的な要求に応える先進的なものでした。その考え方から勤労者山岳連盟に加盟し、活動の基礎を固めました。

その後、会は多くの会員が加入し、登山のレベルと幅を広げていきました。初級レベルではありましたが雪山、岩登り、沢登り、山スキー、海外登山と多様な山の楽しみ方を広げ、活動を活発に行って仲間を増やしていきました。

その50年の歩みを年表形式にして6P～13Pにまとめました。

特徴的な点をいくつか上げてみましょう。

①まずは、公開山行、バスハイクなどこれまで山岳会に入らないまでも登山を楽しみたいという多くの人たちの要求に応え、その人たちを会の主旨に沿って会員として迎え入れてきたことです。

②登山者として成長したいという会員の要望に応え、教育にも力を入れ、雪、岩、沢、山スキーなどの基本を学び、合宿などにも取り入れて会員の成長につなげてきたことです。

③日常生活を豊かにする登山活動、という主旨に沿って、例会を大切に交流、親睦を図り、山歩会だよりの月1回、会報の年3回定期発行等の情報交換活動も持続的に取り組みました。

このように、活動の幅とメンバーを増やし、愛知県勤労者山岳連盟の中でもそれなりの役割を担ってきました。自然保護活動でも労山主催の清掃登山にも積極的に参加してきました。県民ハイク、登山研究会や全国的な交流活動にも協力したり、さまざまな連盟の取り組みにも参加し、それなりに役割を果たしてきました。

しかし、登山活動の拡大にともない、安全面での問題、特に何回かの悲しい事故も経験しました。

1974年9月、鈴鹿山脈鈴北岳での西辰子氏の遭難死亡事故

1979年5月、同じく鈴鹿山脈御在所岳本谷での佐久間勝三氏の遭難死亡事故

この二つは成長を始めた山歩会にとって大きな出来事でした。この二つの遭難から会は「どんな山にも危険があり、安全対策を忘れない事」を教訓として会の活動を発展させました。その後、毎年秋には二度の事故を起こした鈴鹿山脈で「祈念山行」を行い、どんな登山にも危険があるという教訓から安全登山への認識を新たにすると取り組みも続けています。

1990年代に入ると、北鎌尾根や甲斐駒黄連谷でのバリエーションでの事故が続きました。

そして、93年12月、西穂高岳での喜多川勝氏の死亡事故を引き起こしました。

会としてはこの事態を深刻に受け止め、「受動的な登山ではなく、自分で安全面などを考える事のできる自立した登山者として成長する事」を重視し、安全面に会員一人一人がしっかり意識して登山活動を行う事を基本方針としました。

会としての総括はその事故ごとに報告書にまとめてきました。

残念ながら、その過程で意見を異にした仲間が会を離れていくという事も経験しました。

また、その前後から旅行会社による登山ツアーが増え、会の公開山行、バスハイクなどに参加者が集まらなくなってきました。

さらに21世紀に入ると、組織離れの風潮の拡大、インターネットやSNSによる情報交換の活発化に対して新しい会員を拡大することが難しくなってきました。会員の固定化とそれによる必然的な高齢化が進む中、若い人たちとの接点を作ることができず、じわじわと後退傾向が進んで現在に至っています。

それでも山岳会による登山技術、安全対策などの教育の役割は大きいとの声もあります。

現在、会は大きな転換点に来ていると感じています。

各会員の登山指向も固定化し、特定のメンバーによるパーティ編成、山行が多くなってきました。メンバーの固定化と高齢化が進む中で、近年のコロナ禍からさらにその傾向が強くなっています。緊急事態宣言が出た際には会の山行活動を中止、その後活動可能な会員が感染対策に気をつけて活動を継続しましたが、少人数でいつも行きやすいメンバーとの山行になってしまいました。

また、コロナ禍への対応として LINE 例会を導入し、昨年度の総会も LINE 方式での開催となりました。メリットとしては例会に参加できない会員も参加でき、情報が共有できることがありました。その一方で、例会会場に出かけなくても情報が得られることから、会場で顔を合わせて情報交換をしたり、山行や行事の打ち合わせ、会員の交流を行うことが極端に少なくなってしまうことです。これが先に挙げた山行パーティの固定化に拍車をかけ、同時に会の業務が特定個人に集中することになっていると思われます。いくらデジタル化した社会といえども。人間どうし、顔を合わせて話す事はスマホなどの画面越しでは伝わらないニュアンス等も含めた交流に必要だと感じています。

今後、名古屋山歩会がどうなっていくのか？、このままジワジワと衰退して消滅するか？、会運営を抜本的に変えて会員みんなで支え合い、新しいメンバーを迎えるなど、もう一度活性化して豊かな登山活動を継続できるのか？、これからの活動が現会員の皆さんの動きによって大きく変わってきます。会が後者の道をたどることができることを期待し、これからも活動を続けていきたいと思いますので、会員並びに関係者の皆様のさらなる参加、協力をお願いする次第です。

遭対部 6月16日（金）第55期第2回遭対担当者会議の報告

2023年6月16日（金）県連事務所で19:30より、第2回遭対担当者会議を開き、7山岳会11名が参加しました。【参加者】高井、澤井（春日井峠）、名倉（くらら）、神崎、樋江井（若駒）、三島（じねんじょ）、堀（ASC）、松本（東三河）、谷本、井上、佐藤（あつた）

1. 事故報告

NO.1【春日井峠】 斜面のへつり道を通る際、足を滑らせ2m滑落。【事故発生日時】2023年4月13日（土）10時30分頃【山域・山名】美濃・燕山【事故者】女性 66才【受傷の程度】左足首座傷【事故の概要】登り口から50分程の小滝を高まき地点の支谷を渡った斜面のへつり道から2m下の支谷へ滑落し左足首を痛めた。三角巾で固定して荷物を分けて、事故者を肩組で支え、引き返し病院で受診。

▲反省・指摘など・幅30cm、長さ4mほどのへつり道だったが、落ち葉に隠れた小石に乗ったのでは・危険個所の通過では、注意喚起を徹底する。等の意見がありました。

NO.2【あつた・じねんじょ】 クラックルートをリードでトライ。最後のワイドセクションをトライ中、右腕の保持が出来ず、1.5~2m位ルート左にあったテラスに滑落。【事故発生日時】2023年4月22日（土）8時00分頃【山域・山名】名張・第1岩壁【事故者】男性 58才【受傷の程度】右足かかとへの打撲【事故の概要】クラックルートをリードでトライ。最後のワイドセクションをトライ中、右腕の保持が出来ず、1.5~2m位落下してカムで止まったが落下中ルート左にあったテラスに体が横の状態でごつかった。おしりとかかかとが痛いとのことで、そのままローダウンでおろした。▲反省・指摘など・登る前に、想定される注意点を伝える・落下距離が長くないよう、支点を早めにとるようにする等の意見がありました。

NO.3【登山学校】 前尾根をP5より登攀を始め、P4で左足小指付近に痛みを感じP3登攀後登攀不可な痛みを訴えたため中止して下山。【事故発生日時】2023年5月22日（日）8時00分頃【山域・山名】鈴鹿・御在所前尾根【事故者】女性 54才（登山学校受講生）【受傷の程度】小指、薬指付根の骨折（部分亀裂）【事故の概要】P5より登攀開始。P4にて左足小指付近の痛みを感じP3登攀後、登攀不可な痛みを訴えたため中止して下山。▲反省・指摘など・不整地での登攀により、負傷箇所へ集中的な荷重がかかった。目の前のルート登攀に必死で、負傷箇所は無理な力が加わる状況になった。▲反省・指摘など・新品のシューズなのでサイズがあっていたのか？・骨粗しょう症の疑いはどうなのか？人への聞き取りや声かけを行い、状況把握、経時変化の気付きを改善し、負傷箇所への負荷を軽減する判断、対策が必要。等の意見がありました。

NO.4【山の会くらら】 石樽峠から竜ヶ岳に行き、下山時、斜面のある岩混じりのザレ場で仰向け

に足を滑らせ転倒し、左足骨折。【事故発生日時】2023年5月4日（木）11時40分頃

【山域・山名】鈴鹿・竜ヶ岳【事故者】男性 68才【受傷の程度】左足大腿骨骨折【事故の概要】石樽峠より竜ヶ岳に登り、下山時、笹原稜線ピークを過ぎ、傾斜のある岩混じりのザレ場で足を滑らせ仰向けに転倒（11：40）左足に荷重が集中して大腿骨あたりにピリッと強い衝撃を感じ、左足が動かず119要請をして、ヘリでピックアップ（13：45）搬送、左足大腿骨骨折のため入院。▲反省・指摘など・天候もよく注意力が散漫になっていたのでは。・ザレ場の下り方で後ろ向きに下りていれば滑らなかったのでは。・単独登山でなくよかった。ピンチカードと一緒に病歴・内服薬・受診病院・検査データなどを入れておくといよい。等の意見がありました。

2. 全国連盟のオンライン説明会の案内。遭対部主催の講習会の案内をしました。

遭対部会議・合宿連絡・報告会議予定

7月7日（金）夏山合宿連絡会議 8月25（金）夏山合宿報告会議

12月8日（金）冬山合宿連絡会議 1月19日（金）冬山合宿報告会議

遭対担当者会議 ①3/31（金）②6/2（金）③9/8（金）④11/10（金）⑤2/2（金）

11月12日（日） 東海ブロック雪崩講習会（机上）

1月13日（土）～14日（日） 東海ブロック雪崩講習会（実技）

6月18日 確保技術講習会実技を行いました。

6月18日、滋賀県比良山岳センター登攀壁にて行いました。

参加者は23名（半田F1名、東三河1名、じねんじょ10名、あつた2名、同志会2名、くらら1名、若駒1名、春日井峠2名、犬山マップ1名、ASC1名、スルジェ1名）。

次の4つの講習内容①タイヤを人に見立てた確保訓練とロードセルによる衝撃測定②トップ墜落に対する確保仮固定③懸垂下降時の仮固定④トップ墜落者が宙づりになった場合の登り返し）で実施されました。例年より参加者が少なめでしたが、各講習内容を時間をかけ学ぶことができました。

6月12日 無雪期救助訓練の机上講習を開きました。

講師 清水（あつた）スタッフ：2名。

参加山岳会（オンライン含む）：犬山3名、じねんじょ7名、スルジェ2名、くらら1名、半田4名、同志会1名、東三河1名、春日井3名、ASC4名、若駒2名、あつた1名

2023年6月12日（月）19時30より県連事務所で、机上講習を行いました。講師はあつたの清水さん。内容は、・救助訓練とは？・正常性バイアスとは。「自分だけは大丈夫だろう」という根拠のない思い込み。「危機に対する人の対応・行動心理」などを学びました。

6月24日（土）救急救命法講習会を開きました。

講師 森（東三河）スタッフ2名

参加山岳会（オンライン含む）：犬山1名、ASC1名、春日井3名、スルジェ1名、じねんじょ5名、若駒1名、半田4名、あつた2名。

2023年6月24日（土）9時30より県連事務所で行いました。

東三河山歩会の事故事例での3件、今期県連での事故概要を説明。愛知県連から出されている事故事例集に学ぶべきこと。同じような事故が多く置き換えてみる必要がある。事故の状況評価の流れや蜂など虫刺されなどの対処方法を学びました。午後からは三角巾使ったケガの処置の方法（足首、腕など）、を実践し、ザイル担架での救助、ネットとストックを使った担架の方法などを学び終了しました。

6月25日 無雪期救助訓練 実技を開きました。

2023年6月25日（日）天候曇り 6:30 裏道登山口集合 藤内小屋先国見尾根取り付き付近にて
 参加者：くらら1名、犬山1名、ASC3名、半田3名、春日井3名、じねんじょ5名、若駒1名、
 あつた1名、同志会1名。コーチ・スタッフ8名 合計9山岳会 26名

6/12の机上講習および6/24の救急救命法の講習を踏まえ、事故を念頭に実技の組み立てを行い実践しました。午前中は以下の4つのセクションにパーティごとに分かれ回った

- ①怪我をした登山者を安全な場所まで搬出。
- ②事故者及びメンバーを収容・保温するツェルトの張り方。
- ③事故者のところまで下りていく技術（ムンターヒッチ）
- ④手の使えない事故者を登山道まで引き上げる

午後は、午前の手順を一連の流れの中で行う事として、パーティごとにメンバーの1名が滑落し、パーティで役割分担して、事故者のところまで行き、引き上げシステム三分之一を使い、救助要請し、安全な場所まで搬出する事を行いました。そのあと反省会を行い15時40に終了しました。

夏山合宿遭対連絡会議の報告

7月7日（金）19時30分より県連事務所で開きました

【出席者】塚田・水越・梅村・伊藤（同志会）、細江（半田）、樋江・神崎（若駒）、宇佐美・松本（東三河）、添田（ありんこ）、渡辺（山歩会）、野村（じねんじょ）、佐々木・森田・谷本・井上（あつた）、佐藤。8山岳会17名の参加で夏山連絡会議を開きました。

当日提出された計画書は、6山岳会26パーティーで、これから夏山合宿に向けて計画途中の会の参加も含めての会議でした。今年の夏山は、コロナも5類になり多くの登山者が山に入るようです。会議の中でも意見がありましたが、現地での駐車場は混雑が予想されます。出来る限り早く出発した方が良いと思われます。また、山域によっては、残雪が少ない場所もあるようです。最新の現地の情報を入手して、事故なく安全な登山をお願いします。

夏山合宿一覧（7/7 夏山合宿連絡会議提出分）

山岳会名		山域	コース	日程	人数	備考
名古屋山歩会		苗場山・越後駒ヶ岳	三合目⑩～苗場山～三合目⑩ 枝折峠～駒ノ小屋～越後駒ヶ岳～枝折峠	7/16～18	2	
		平ヶ岳	中ノ岐登山口～平ヶ岳～中ノ岐登山口	7/19	7	
		巻機山	避難小屋～巻機山～避難小屋	7/21or21	5	
		大雪山～トムラウシ山	姿見～旭岳～白雲岳～ヒサゴ沼～トムラウシ往復～ヒサゴ沼～天人峡	7/23～27	2	
		十勝岳	十勝岳温泉～十勝岳～十勝岳温泉	7/28	2	
東三河	A	金峰山	瑞牆山荘⑩～大日小屋～金峰山小屋～瑞牆山荘⑩	7/15～17	6	
	B	塩見岳	鳥倉ゲート～三伏峠～鳥帽子岳往復～三伏峠小屋～塩見岳～三伏峠～鳥倉ゲート	7/21～23	5	

	C	立山・雄山	室堂～室堂山～浄土山～龍王山室堂 ～雷鳥沢キャンプ場～雄山～真砂岳 ～別山～雷鳥沢	7/27～28	3	
	D	八ヶ岳 天狗 岳～硫黄岳	桜平㊦～根石岳山荘～夏沢峠 硫黄 岳～桜平㊦	7/29～30	7	
	E	白馬岳	猿倉～白馬山荘～拇池	7/28～30	10	
	F	阿弥陀岳～赤 岳～硫黄岳	美濃戸口～行者小屋～阿弥陀岳～赤 岳～展望荘～硫黄岳	7/28～30	7	
	G	双六岳～槍ヶ 岳	笠新道～鏡平～双六小屋～双六岳～ 槍ヶ岳～槍ヶ岳山荘～笠新道登山口	8/3～6	7	
	G'	槍ヶ岳 (G の予 備コース)	上高地～横尾山荘～槍ヶ岳～横尾山 荘～上高地	8/4～6	7	
	H	北岳～間ノ岳 ～農鳥岳	広河原～北岳～間ノ岳～農鳥岳～奈 良田	8/6～9	7	
	I	西穂高岳～奥 穂高岳	西穂山荘～西穂高～ジャンダルム～ 奥穂高～穂高山荘～上高地	8/12～15	8	
	J	八ヶ岳 天狗 岳	稲子湯～本沢温泉～天狗岳～中山峠 分岐～稲子湯	8/19～20	7	
半田 F		立山三山・奥大 日岳	室堂～雷鳥沢キャンプ場～雄山～真 砂岳～別山～雷鳥沢～奥大日岳～雷 鳥沢～室堂	7/22～24	12	
ありん こ		白馬岳～杓子 岳～白馬鑓ヶ 岳	拇池～白馬大池～白馬岳～杓子岳～ 白馬鑓ヶ岳～白馬鑓温泉～猿倉	7/28～30	9	
じねん じょ		西穂高岳	上高地～西穂山荘～西穂高岳～西穂 山荘～上高地	7/29～30	12	
同志会		劔岳源次郎尾 根	劔沢小屋～源次郎尾根～劔岳～ 劔沢小屋～室堂	8/4～6	4	
		劔岳源次郎尾 根	劔山荘～源次郎尾根～劔岳～ 劔山荘～室堂	8/5～7	3	
		劔岳 八ツ峰	劔沢キャンプ場～長次郎～五六のコ ル～劔岳～劔沢～室堂	8/5～7	3	
		劔岳	劔沢キャンプ場～劔岳～劔沢キャン プ場～室堂	8/12～14	7	
あつた	A	仙丈ヶ岳・甲斐 駒ヶ岳	北沢峠～長衛小屋キャンプ場～仙丈 ヶ岳～長衛小屋 C～甲斐駒～長衛小 屋 C～北沢峠	8/10～12	7	
	B	北穂東稜・前穂 北尾根	涸沢～北穂東稜～涸沢岳～涸沢～北 尾根五六コル～前穂～岳沢	8/11～13	5	
あつた	C	神宮川笹ノ沢	神宮川ゲート～黒津沢出合～アレ沢 ～水晶ナギ～五尊神社	8/19～20	9	

※県連留守宅

8月10日(木)～12日(土) 廣田 猛(同志会) 080-1613-4171

その他は県連遭対の佐藤まで連絡して下さい(090-2578-1525)。

また、これから合宿を取組む予定の会は、計画書をメールで送って下さい

k-310-satou@dream.jp まで、お願いします。

自然保護部 6月4日鈴鹿山系清掃登山の集計報告

鈴鹿山系清掃登山 御在所岳清掃一覧

山岳会名	人数	コース	不燃ごみ	可燃ごみ
半田 F	47	武平・中道	1.9kg	1.2kg
若駒	10	中道	2.4kg	0.7kg
東三河	8	東多古知・中道	1.0kg	1.0kg
あつた	23	裏・表・本谷	2.1kg	4.7kg
かわせみ	7	国見	6.0kg	3.3kg
東海	10	裏	0.1kg	1.5kg
同志会	39	中・ヤシオ・国見・前尾根・ヴィアフェラータ・東多古知	10.7kg	15.4kg
山好会	31	表	3.1kg	1.0kg
一般	6		3.0kg	3.5kg
合計	181		30.3kg	32.3kg

鈴鹿山系清掃登山 藤原岳清掃一覧

山岳会	人数	ハルザキヤマガラシの駆除ゴミ袋数	不燃ごみ	可燃ごみ
みどり	14(一般 2)	1		
ASC	13(一般 1)	5		
東三河	11	2		
犬山マップ	14(一般 1)	2		
くらら	31(一般 1)	5		
ありんこ	18(一般 2)	9		
ふわく	9	1		
春日井峠	23(一般 1)	6		
じねんじょ	19(一般 2)	3		
名古屋山歩会	3			
スルジェ	16(一般 3)	2		
県庁職員	2			
合計	173(一般 13)	36	5kg	4.5kg

※その他に 5 月 21 日にハルサキヤマガラシ駆除を同志会が行い 4 袋分を駆除しました。

※藤原岳の不燃、可燃ごみは、各会全体の集計のみです。

教育部 6/22(木) 第4回教育担当者会議を開きました

日 時：6月22日(木) 19時30分～ (zoom会議で実施)

参加者：くらら(吉田)、あつた(坂木)、かわせみ(野村、佐伯)、犬山マップ(日比野)、
みどり(澤田)、ありんこ(榊原) 計 6山岳会 7名

(1) 前回議事録の確認

前回議事録を確認しました。

(2) 雪山安全講習会について

- ・コロナの影響で、54期は講座(座学)でzoom会議でのリモートの実施となりました。55期は、集合座学(zoom併用)で実施していきます。また、実技の日帰り/テント泊の両方を実施していくことを確認しました。

(ただし、今後のコロナ禍の推移により、変更あり)

- ・55期雪山安全講習会の日程とカリキュラム等も確認しました。
- ・講師分担について

54期、講座①③④の講師が同一山岳会でした。今期、違う山岳会が講師を担当するように提案を受け、各山岳会で次回までにどのテーマで分担するか検討することとなりました。(くらら、あつた、犬山マップ、ありんこで検討) また、講座②の冬山の気象については、日本気象予報士会東海支部に講師依頼することとなりました。

(3) 教育活動に関する意見交換

各会の今後の教育活動に役立つよう、今回は、夏山合宿にむけて学習会やトレーニング山行等が予定どおり行われているか等の意見交換をしました。

- ・アルパイン/沢/一般と3つの夏山合宿が計画予定で、アルパインでは北穂東陵・前穂北尾根の予定で八ヶ岳の大同心/小同心でトレーニング山行の予定。
- ・合宿はないが、会で日光の男体山/白根山を計画。新人を月2回程度、金勝アルプス等で鍛えている。
- ・例会時にツェルトの張り方/地図読み/テーピング/登山の危険/健康管理の学習会を実施。トレーニング山行は岩場通過訓練/長距離歩行訓練を実施。
- ・合宿はないが、御嶽山/白馬三山等を予定。公開講座の山行で白山へ。トレーニング山行は、大日ケ岳/荒島岳/空木-南駒を実施。
- ・新人学習で「山行計画書をかけるようになろう」と養老山の計画書を作成してもらい、5/20にその計画書に基づき養老山の山行を実施。大高緑地でロープワーク/ツェルトでのビバークの仕方等のレスキュー訓練を実施。

などの意見がだされました。

今後も、直接/間接を問わず、各会の教育活動に役立つよう、意見交換をしていきます。

- (4) 次回の第5回教育担当者会議を2023年8月24日(木)に19時30分よりzoom会議で実施しますので、各会から奮って参加をお願いします。

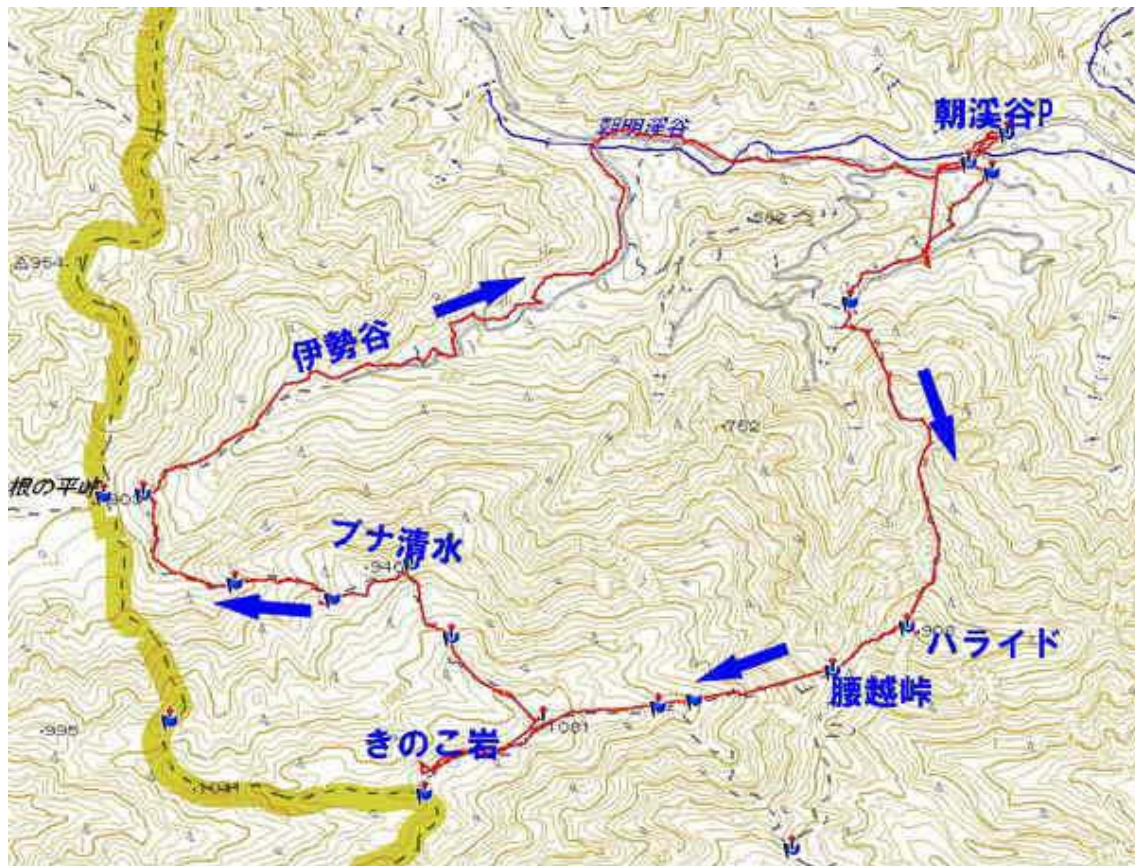
教育部交流山行をします!(9/24)

教育部で交流山行を計画しました。危険個所の通過や縦走の雰囲気体験できるコースとしたので、奮って参加願います。

1. 日 時：2023年9月24日(日) 8:00 集合
2. 集合場所：朝明駐車場(8:00 集合)(基本的に各山岳会ごとの車での相乗りとします。)
3. 申し込み：愛知県勤労者山岳連盟教育部(e-mail:aichirousan@gmail.com)宛てに氏名、所属山岳会名を明記して9/10までにメールして下さい。

4. コース（コースタイム参考）

朝明駐車場 8：30～登山口 8：50～ハライド山頂 9：45～腰越峠 10：05～きのこ岩
10：45～ぶな清水 11：15-13:00（昼食＆危険個所の通過の訓練等）～分岐～朝明駐車場
15：00



※昼食休憩後、危険個所の通過の訓練等（1時間くらい）を予定
日帰り装備として持っていくシュリング3本・カラビナ3個を使用。

- ・簡易ハーネスの作り方
- ・固定ロープのセットの方法（シュリング＆カラビナ）
- ・ブルージック等を使用しての登り＆トラバース
- ・半マストを使用しての下降

組織部 第55期 第4回 組織担当者会議 報告

2023年7月13日(木)

県連事務所：午後7時～9時00分

出席者：あつた(□中川)、若駒(□中橋)、同志会(□吉川)

Zoom：東三河(□戸田)、あつた(松岡)、スルジェ(杉田)、じねんじょ(後藤)、

1) 組織数の推移・入退会理由――

6月末の会員数動向は、第55期6月末までの入会者数計47名、退会者数51名で入会者数を退会者数が僅かに上回り、6月末で計853名でした。3ヶ月で47名の入会者を迎えていることは注目すべきことと言えます。人数集計内容は精査中です。

2) 労山運動の学習について ――理念は言葉の定義の問題ではなく、労山運動の基本的な考え方・進め方について趣意書や県連盟規約に即して整理していきます。

3) 全国組織担当者会議——別稿、報告書参照。

[口頭での報告と意見交換]

* 遭難対策としてコンパスの利用が強調されていた。

ココヘリは各地方の県警とつながっているの、ココヘリを通じて山行の届け出がされていれば捜索活動が早期になされ人命救助に役立つ。県毎の書式が違っていることがあるがココヘリの場合には共通の書式で提出できる。県境で縦走など両方の県警に出す必要がなくなる。

各会で使用している計画書をそのまま貼付け提出出来るのであれば利用価値が高くなる。

* 北海道からの報告では、一つの会が大きくなった場合にジャンルに応じた会として分割しやりたいジャンルの会として発足し、新たに会員を集めて発展しているのは印象的であった。

* 各地方連盟からの報告として、会員の高齢化、登山学校、一般の人を集めてのバスツアー登山などがあつた。ツアー登山では安く山に行けるが、入会にはつながっていない。

* 他の遭対保険もあり労山基金に 10 口入らなくなっているのではないかな。

* 他県の会員との交流、話し合いは楽しかった。

* コンパスの利用で事故の場合には労山基金の給付の対象となるが、山行管理としての計画書の提出とは異なるので、会での議論をし合意できるようにしてほしい。

4) 第 55 期一般向け登山講座、——

① 実技山行代替(案)——8 月 26 日(土)猿投、実施予定。

「危険個所の通過」の実施方法、場所——

下見——3月21日(火)猿投山武田道。 参加——落合、榊原、松岡、吉川、

武田道というあまり人の通らないコースの途中で岩場が少しあり、立木を利用してザイルフィックスできる。

登りのプルージックと下りの半マストの両方の練習ができる。

岩の登る距離としては国見岳よりも少し長い感じです。

危険箇所通過用資材——ヘルメット、シュリング等、ほぼ購入される。

② 登山講座受講生の各会への入会状況は、計 2 名。

③ 来期第 56 期に向けて、

* リーダーがギリギリの人数となっており、確保が課題。

受講生の確保——従前からの HP だけでは宣伝不足で、公的機関の後援を取り公民館などに掲示できるようにする。

* 秋期に日程変更する案を、代表者会議に報告する。

* 講座内容・実技山行の内容と進め方、講座の進め方についてマニュアルを作成する。

[上記についてと、他について意見交換]

* 公的機関の後援を得る件。調査の報告があつた。

* 名古屋市の場合は 4 月に人事異動があるかも知れないので、4 月になってからの後援申請が良い。施設としては生涯学習センターがある。後援の場合は 50 名規模でないと難しいのではないかな。これには Zoom も含めたらどうか。市の対応部署は学習管理課。会則・役員名簿など主催団体を明示する書類は必要となる。

施設には多くの持ち込みがあるのでチラシを長期間は置けない。

* 愛知県は収益性のある行事は後援できない。

対応部署は愛知学び推進課教育 G、地域連携支援 G など

登山をスポーツと捉えるかレクリエーションと捉えるかによって県の対応部署が異なる。

④ アンケート結果集計表を配布して意見交換した。

* 全体の日程が長くなるので、1 日(土)に 3 講座にして集中して行つてはどうか。

* 今年は雨天中止の代替山行を組んだが、当初から予備日程を組んでおくことは人

材の確保の点から難しい。

*危険個所の通過講座は、実施の意味があるのかどうか。講座ではロープワークにして、実技講習は各会に入ってもらった方が良いでしょう。

*各会への入会勧誘の機会・キッカケとして清掃登山に参加してもらったが、会の対応が難しい。

*秋季の実施は、会によっては春合宿の準備期間と重なり、PLなど確保が難しい。今年度経験のある実行委員が少ないので、来年の準備期間を確保したい、——などによる。

6) 実務の分担——組織担当学会議内での実務の分担。

①組織数、入退会理由の集計——落合

②各会役員名簿のとりまとめ ——後藤

③各会 HP の更新状況、チェック。——戸田、——調査状況を配布した。

7) 平和行進参加者集計——2017 年度からの参加者数の一覧を配布した。

コロナ禍で中断していた事、日程表などの入手が遅れたこと、一般登山講座の期間が延びたことなどにより取組みのスタートが遅れ、などにより、各会の参加者は従前より少なかった。来年度は早くから学習も含めて準備したい。

今年度の参加者は 6 山岳会 15 名で、ほとんど理事・役員での対応で、主に静岡県からと岐阜県への引継ぎでの参加となった。

今年度、あいち平和行進実行委員会と連絡が取れるようになったので、来年度は連絡を密にしたい。

8) 交流山行——東三河理事との交流と、CL.SL の役割確認兼ねて、9 月 3 日(日)鳳来寺山実施で準備していく。各会からも参加ください。

全国組織担当学会議参加報告

全国組織担当学会議

期日 2023 年 6 月 10 日(土)13:00 開会 ～ 11 日(日)12:00 閉会

会場・宿泊 福岡県立社会教育総合センター

参加者 各都道府県連盟 組織担当者:30 名 全国連盟:10 名

進行内容

10 日

13:20 開会あいさつ

主管:日本勤労者山岳連盟福岡県連盟会長 荒木 辰彦

主催:日本勤労者山岳連盟会長 浦添 嘉徳

13:35 特別講演 日本勤労者山岳連盟理事長 川嶋 高志

「日本における山岳団体としての 労山の歩み 2019 年～2023 年
安全登山とココヘリ・コンパス、2023 年からの未来への展望を語る」

15:15 基調報告 日本勤労者山岳連盟組織部長 久保 典子

「全国連盟組織部の取り組み 過去の情報から未来へつむぐ」

15:20 地方連盟組織活動レポート報告

北海道道央地区連:北海道連盟組織活動

千葉県連:千葉県連の現状と課題

埼玉県連:全国組織担当学会議レポート(埼玉)

岡山県連:倉敷ハイキング倶楽部の組織拡大の歩み

岡山県連:新規会員を迎える

香川県連:香川県勤労者山岳連盟組織部の取り組み

福岡県連:福岡県連の現状と取組み、将来への考察

-17:00 質疑・討議

11 日

9:00 討議開始

11:45 全体のまとめ 日本勤労者山岳連盟組織部長 久保 典子

11:50 閉会式・挨拶 日本勤労者山岳連盟理事長 川嶋 高志

感想

組織担当者の課題については、組織数の減少傾向、会員の高齢化、会員拡大の方法の共有、労山の強みは何か、県連とクラブ・会での取り組み方などが話題に上った。

全国各地の組織担当者の話が聞けて、大変参考になり刺激を受けた。

コンパスは、手続きの方法が異なる自治体への登山届けや警察への連携が大変便利にできており、愛知県連にも推進を進めたいと感じた。

HPとSNSは今後の情報発信に重要と感じた。愛知県連のHPも、会員向けと一般に向けて運営に注力するべきと感じた。

一般向けの登山学校では、市や県の教育委員会の後援が有用と指摘があった、現在検討中だが前向きに進めたい。

注)労山リーフレット(A4、三つ折りのチラシ)は会の紹介に役立つと思われた。会に紹介して利用を検討したい。

各地でクラブ・会が高齢化のために廃止になっている報告があり、組織継承の意識が必要と感じた。

注)労山リーフレット:全国連盟のホームページより

<https://ws.formzu.net/fgen/S456814732/>

「A4・三つ折りのリーフレットができました。

表面中央(三つ折りの状態で裏面になります)の下の白い囲みに連盟・クラブ紹介を印刷できます。200部まで全国事務所で無料でお作りいたします。」

また、連盟の上記サイトに見本と申し込みフォームがあります。

記:若駒山岳会 中橋 稔

【編集後記】 趣味で(?)、御在所ロープウェイがホームページで発表している山頂の気温を出来るだけ毎日メモするようにしています。7月17日、18日と二日続けて昼の気温が26℃になりました。これは実は結構珍しいことで、25℃の日はよくあるのですが、26℃になったのは昨年の夏は一日だけ。一昨年は一日もありませんでした。というわけで暑い夏です。 ご自愛くださいませ。(事務局 井土)

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

Schedule 2023

8 月			9 月			10 月		
1	火		1	金		1	日	代表者会議 全国ハイキング学校
2	水		2	土	登山学校 C 組織部交流山行	2	月	
3	木		3	日	登山学校 MC	3	火	
4	金		4	月		4	水	
5	土		5	火		5	木	教育担当者会議⑦ 女性部部会⑦
6	日		6	水		6	金	自然保護担当④
7	月		7	木	組織担当者会議⑥ 女性部部会⑥	7	土	
8	火		8	金	遭対担当③	8	日	
9	水		9	土		9	月	(スポーツの日)
10	木	組織担当者会議⑤	10	日		10	火	
11	金	(山の日)	11	月		11	水	
12	土		12	火		12	木	組織担当者会議⑦
13	日		13	水		13	金	
14	月		14	木	理事会⑧	14	土	
15	火		15	金	自然保護担当③	15	日	
16	水		16	土		16	月	
17	木		17	日		17	火	
18	金		18	月	(敬老の日)	18	水	
19	土	登山学校 M	19	火		19	木	理事会⑨
20	日	登山学校 C	20	水		20	金	
21	月		21	木	教育担当者会議⑥	21	土	
22	火		22	金		22	日	
23	水		23	土	(秋分の日)	23	月	
24	木	全国理事会 教育担当者会議⑤	24	日	交流山行(教育部)	24	火	
25	金	夏山合宿報告会議	25	月		25	水	
26	土	登山学校 M	26	火		26	木	全国理事会
27	日	登山学校 M	27	水		27	金	
28	月		28	木	理事会⑨全国理事 会	28	土	交流山行(組織部) 全国登山学校交流集会
29	火		29	金		29	日	全国登山学校交流集 会
30	水		30	土	全国ハイキング学校	30	月	雪山安全講習会①
31	木	理事会⑦				31	火	